

## 7. 同音異義語の仮名漢字変換練習用音声問題

### Auditory Workbook for Correct Usage of Homophones

あらまし 日本語には多くの同音異義語が存在している。中には意味も類似しているものもあり、それらを正しく使い分けるためにはできるだけ多くの用例に触れることが重要である。晴眼者の場合、その練習用の問題集が多数出版されているが、視覚障害者が音声または点字で利用できるまとまった問題集は稀である。そこで、音声を聞きながらパソコンで仮名漢字変換を行い、同音異義語の使い分けを練習できる問題集を作成した。

## 1. はじめに

日本語には多くの同音異義語が存在している。たとえば、「はかる」という単語には「計る（計算のけい）」「測る（測定のそく）」「図る（図画工作のず）」「謀る（謀略のぼう）」など多くの同音異義語が存在しており、書き手の意図を正確に伝えるためにはこれらを厳密に使い分ける必要がある。

同音異義語を正確に使い分けられるようになるには、できるだけ多くの用例に触れる必要がある。晴眼者向けに出版されている漢字の問題集やテキストには、同音異義語の用例や問題が収録されており、使い分けの練習をする環境は十分にある。しかしながら、視覚障害者が使えるような問題集は見当たらなかった。そこで、視覚障害者が仮名漢字変換をしながら同音異義語の練習ができる問題集を作成することとした。

## 2. 練習問題の作成

練習問題の作成要件は以下の3点である。

- 1) 視覚障害者が利用できるように、問題文を音声で提示し、解答はパソコンで仮名漢字変換して入力する使い方を想定する。
- 2) 漢字は、日本漢字能力検定の4級、3級、準2級の問題集[1]に含まれるものを選ぶ。
- 3) 問題集の配布を前提としているため、問題文はオリジナルで作成する。

できあがった問題文について、2段階のチェックを行った。まず、人手によるチェックを行い、文脈を頼りに同音異義語を選べるかどうか、問題文として聴いたとき違和感がないかを確認した。この作業には5人が順番に携わった。

次に、問題文に含まれる単語の文字単語親密度、音声単語親密度を求めた。単語親密度とは、人がある単語に対して感じている親しみの度合いを表現した1から7の数値で、値が大きいほど親しみがあると言える[2]。このチェックによって、親密度の低い単語が問題文に含まれていないことを確認した。もし、問題文中に音声、文字どちらかの単語親密度が4以下の語が含まれていた場合は、その問題文を作り直すか、あるいは不採用とした。

チェックを終えた問題文は、漢字検定の級ごとにまとめ、アナウンサーに読み上げてもらったものを録音した。

### 3. 練習問題の概要

作成した練習問題の概要を示す。問題数は、漢検 4 級漢字の問題：135 組，漢検 3 級漢字の問題：62 組，漢検準 2 級漢字の問題：44 組である。問題中の単語親密度の平均値は、漢検 4 級漢字の問題：音声...5.766，文字...5.853，漢検 3 級漢字の問題：音声...5.777，文字...5.851，漢検準 2 級漢字の問題：音声...5.626，文字...5.650，であった。

各級の問題を 1 組ずつ示す。

#### 【4 級】

鋭利な刃物を買う，の，えいり

営利目的の団体，の，えいり

#### 【3 級】

不朽の名画を鑑賞する，の，ふきゅう

携帯電話が普及している，の，ふきゅう

#### 【準 2 級】

祖父が家を普請した，の，ふしん

不審な人物が目撃された，の，ふしん

配布形態は、音楽 CD，カセットテープ，WAV 形式の電子データ，テキストデータ，DAISY（2.02 版）の 5 種類である。

### 4. 試用者の感想

作成した練習問題をリハビリテーション施設や盲学校などで、パソコン指導や漢字指導を行っている方々に配布して試用してもらったところ、以下のような感想を得た。

全般：

- よくまとまっていて使いやすい。
- 4 級，3 級，準 2 級というようにレベル別になっているので段階的に学習できる。
- 問題文に抽象的な表現が含まれているものがあり，解きづらいことがある。

問題集の構成：

- 読み速度が遅い。
- 問題と問題の間隔が中途半端。

- テープ，CD1 本あたりの問題数が多すぎる。
- 聞きなおしを行うのに不便。

#### 利用形態について：

- 国語や自立活動の時間に，先生の解説付きで練習し，反復してテストすると効果が期待できる。
- 自習することができない。

問題集の内容については，おおむね好意的な感想が得られた。一方で配布形態や構成については，検討する余地があるだろう。読み速度，聞きなおし，問題と問題の間隔については，複数の方から得られた感想である。この問題について DAISY 形式を用意することで解決が図られたと考えられる。

現在の配布形態では，問題への解答までは視覚障害者自身が行えるが，採点作業は行えない。今後は自動採点ソフトウェアを用意するなどの工夫が必要である。

#### 謝 辞

作成した問題文を 1 問 1 問丁寧にチェックして下さった村上真理氏と高橋恵理子氏，問題文の録音・編集をして下さった日本盲人会連合録音製作所の方々，試作段階のテープを聴いて感想を寄せて下さった方々，DAISY 版を編集して下さった国立塩原視力障害センターの秋山仁氏，第 13 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会のポスター発表での議論に参加して下さい下さった皆様に感謝いたします。

#### 参考文献

- [1] 日本漢字教育振興会，漢字学習ステップ 4～準 2 級，財団法人 日本漢字能力検定協会，京都，1997.
- [2] 天野成昭，近藤公久（編者），NTT データベースシリーズ—日本語の語彙特性—第 1 期，三省堂，東京，2003.

#### 出 典

本章は，以下の原稿をもとに再構成した。

- 山口俊光，渡辺哲也：同音異義語の仮名漢字変換練習用音声コンテンツの試作，第 15 回視覚障害リハビリテーション研究発表大会，PIV-61，September 2006.